

令和5年度 東京都立江戸川高等学校（全日制課程）学校経営報告

東京都教育委員会から4期目の「進学指導推進校」の指定を受け1年目を終えた。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行にしたことに伴い、コロナ禍前の教育活動を展開することができた。

本校創立以来の気風である「文武両道」の意識をもとに、高い志により第一希望の進路の実現を図れるよう、都立高校で一番仲の良い教育員集団を目指して生徒の指導に取り組んできた。

今年度の取組と自己評価

1 教育活動への取組と自己評価

(1) 学習指導

- ① 1年生と2年生で実施する学力スタンダード（学力到達度調査）において、到達目標を明確にし、基礎力の定着とともに、応用力の育成や大学入試を見据えた実力を身に付けさせる指導を行った。
- ② 5教科を中心に難関大学受験等に対応した「学習課題」、「実力テスト・課題テスト」、「補習・講習」等の指導を行ってきた。スクールタイマーの活用も定着した。
- ③ 外部指導員を配置して月・水・金に午後7時半まで自習室を開放し、自学自習を支援した。
- ④ 宿題、週末課題、オンライン課題と小テストや授業との関連させることで、予習・復習及び学習の振り返りの習慣化を定着させてきた。
- ⑤ 土曜授業は、計画とおり18回実施することができた。長期休業日中の講習は50講座以上を実施した。特に夏期講習はのべ1300名以上の参加があった。
- ⑥ 授業公開はコロナ禍前の状態で実施、若手教員の研究授業を各学期に実施し教員相互の参観を促進した。
- ⑦ 3年生及び2年生を対象に実施した「スタディマラソン」では、生徒全員参加の形で自学自習の経験をさせた。
- ⑧ 思考力や表現力を育成するために問いかけを工夫した授業、アクティブラーニング型の授業が実践されている。ペアワークやグループワークなど各担当が工夫して実施した。
- ⑨ チームズやフォームズを授業に取り入れたり、課題を配信したりするなどICT機器を活用した授業の実践が増えている。民間の学習支援システムの活用も促進した。
- ⑩ 教科「人間と社会」について、4年ぶりとなる菱野山荘を活用した2泊3日の自然体験合宿を円滑に実施することができた。また、区内保育園等と連携して体験活動を実施した。
- ⑪ 一部の教員は校外での研修も希望し、校内の学習指導への還元することができている。
- ⑫ 東京2020レガシー教育は、1、2年生において、東京都子供を笑顔にするプロジェクトを活用してパーカッション・エンターテイメントを実施し、芸術に対する理解を深めることができた。

【自己評価】

外部機関による生徒による授業評価及び校内研修会を実施し、教員個々の授業改善の取組を促進した。

進学指導訪問において、大学入学共通テストや受験結果を教科で分析して授業や定期考査の改善につなげることで、模試の分析会を踏まえた授業改善や教科主任会実施の助言を受け改善に取り組んだ。

英語科においては、大学受験や英語力育成のために実用英語技能検定の受験指導に取り組んだ。今年度は、準1級合格者4名、2級合格者98名、準2級合格者133名となり合格者が大幅に増えた。今後も英検を中心に指導していくことが、確実な英語力の向上につながることで更に充実させていく必要がある。

新学習指導要領への対応や大学入試対策のため、主体的な学びにつながるように授業や指導体制の改善を推進していきたい。朝学習や夜間自習室も継続し、自学自習を推進し学力向上につなげていきたい。

(2) 進路指導

- ① キャリア教育として、1年生の「ようこそ先輩」（同窓会と連携）、「卒業生に学ぶ」（大学生の卒業生による講話）を実施することができた。2年生では進路講話、大学出張講義、受験体験発表会を実施し、進路実現のための学力の向上を図った。
- ② 進路部と学年、教員相互、外部機関との連携を深めたことで、体系的な進路指導計画のもと、きめ細かな指導が定着してきた。進路だよりの発行により進路情報を積極的に発信することができた。
- ③ 学力到達度や模試・実力テスト分析会を計画どおりに実施し、個々の生徒の実態にあった進路指導を行うことができた。全学年で都教育委員会事業の校内予備校の新たな取組を実施した。
- ④ 総合的な探究の時間において、自己の資質・能力、将来の姿を考察し、自己の進路実現に向けて課題を解決する能力と探究心を身に付けさせる指導を推進した。2学年ではSDGsの観点から江戸川区社会福祉協議会等と連携して授業を行った。3学年ではアブストラクトを作成し、秀作を取りまとめた。
- ⑤ 1学年主任及び進路担当を小山台高校へ派遣して意見交換を実施した。
- ⑥ 公民科の授業を中心に、社会の形成者として求められるべく主権者としての意識啓発を推進した。

【自己評価】

3年間を見据えた進路指導計画のもと、キャリア教育を含めた指導体制の確立が進んでいる。高い志を持ち自己実現に挑み、生徒は持てる力を十分に発揮することができた。国公立大学と難関私立大学への合格者数

は昨年度に比べて増加した。GMARCHの合格者数は86名にとどまり、日東駒専の合格者数は250名となった。また、大学入学共通テストは、92.9%が受験し、全国平均点を上回った教科・科目は、地歴（日本史B、地理B）、公民（現代社会、政治経済）の4科目で昨年度より減少した。都教育委員会事業の校内予備校は円滑に実施することができた。

※今年度の合格実績は以下の通りである。

| | 今年度 | 昨年度 |
|-------------|----------------------------------------|-----------|
| ・国公立大学 | 今年度：7名（千葉1、埼玉2、都立4） 昨年度：2名（都立1、静岡1） | |
| ・難関私大 | 5名（慶1、理4） | 5名（早1、理4） |
| ・GMARCH | 86名 | 103名 |
| ・成成明國武芝 | 83名 | 103名 |
| ・日東駒専 | 250名 | 293名 |
| ・私立大学のべ合格者数 | 831名 | 998名 |
| ・私立短期大学の合格者 | 2名 | 1名 |
| ・公務員 | 受験者なし | 受験者なし |

(3) 生活指導

- ① 学校全体として、各教室の3S（整理・整頓・掃除）を徹底した。自転車通学マナー・文化祭の音に関する苦情が3件あった。
- ② 挨拶を基本とした礼儀を重視する指導を行っている。美化委員会を中心にゴミの分別等の校内の環境整備の指導も行っている。
- ③ 教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションや触れ合いを大切にし、人権尊重の教育を推進した。
- ④ 全定並置校として、副校長や主幹教諭が両課程の学校生活がより円滑になるよう連携し、相互に協力し合う状況を深めた。

【自己評価】

机の位置や掲示物の掲示の仕方、毎時間の黒板の清掃、ロッカーの上の荷物など、クラス内の整理整頓に努め、生徒一人一人が自ら進んで3Sを実践するよう指導した。交通安全に関する指導では、自転車通学者に対して、ヘルメットの着用、傘さし運転をしない声かけ、イヤホンをしている生徒への注意など、引き続き交通安全に対して未然防止に努める必要がある。生徒部が毎日、登校時の駐輪指導をしている。雨天時の傘さし運転や携帯電話等を使いながらの自転車運転等はゼロになっている。

今後も生徒の生命を守る、安全を確保するという視点に立って指導を徹底して事故ゼロを目指す。いじめに関するアンケートを年3回実施し、未然防止に取り組んだ。遅刻者数が増加しているため、次年度に向けて指導を徹底する必要がある。

(4) 特別活動・部活動

- ① 学習と部活動の両立が図れるようにするために、教科担当が相互に情報を共有し宿題や課題の量を調整しているが、家庭学習時間は少ない現状が課題である。
- ② 生徒会や行事の実行委員会において、生徒が主体的に活動することを目指した。保護者や中学生等の外部の参観もあり、コロナ禍前の形で体育祭、文化祭、合唱祭を行うことができた。
- ③ 生徒会役員を指導し、生徒会活動（委員会活動・HR活動等）の活性化を目指した。全学年体制を基本とした活動を生徒中心に行うことで、生徒の自主性・自律性の向上を図ることができた。
- ④ 東京2020レガシー教育としてスポーツ志向を高めることを目指した。全校体制の体育祭や学年別球技大会の実施、運動部活動での大会実績も出すことができ、スポーツ志向を高めることができている。

【自己評価】

体育祭、文化祭、合唱祭の3大行事は、保護者等の観客を招いてコロナ禍前のように本来の活発な行事を実施することができた。生徒会や実行委員会の動きもブランクを感じさせないくらいの動きができていた。次年度に向けては、より主体的に生徒が活動できるようにしていく必要がある。

弓道部が個人で関東及び全国大会出場、ソフトボール部が関東・インターハイ都予選5位、ハンドボール部が東京都公立高校大会準優勝、女子バスケットボール部、女子バレーボール部が夏季大会優勝、美術部が個人で奨励賞を受けるなどの成果を出した。科学部が江戸川区民まつりに参加し地域に貢献した。硬式野球部は、小学生向けに江戸川ベースボールフェスタを開催した。8つの部活動で夏期合宿を実施した。

(5) 保健・安全

- ① 防災教育、薬物乱用防止教室などを計画して実施し、生徒の生命・安全を守るための指導を徹底することができた。特に避難訓練は、より実践的な避難経路を一部封鎖する新たな取組を行った。
- ② 特別支援コーディネーターが中心となり、学年・担当者・スクールカウンセラーとの連携を密にして、生徒の心の変化に寄り添い、個々の課題に応じた対応をした。

- ③ 保健体育科や運動部活動の指導と連携を図り、健康づくりや体力向上のための指導を行った。
- ④ 特別支援教育コーディネーターを中核として、養護教諭とスクールカウンセラーとの連携を密にして発達障害のある生徒や配慮の必要な生徒の心のケアに対する理解を深め、特別支援教育の充実を図った。
- ⑤ 学校保健委員会を中心に保護者・地域・関係機関との連携を強化し、生徒の健康づくりを推進した。
- ⑥ 感染症への対応は日常的に、注意を啓発した。宿泊行事に際してアレルギー反応の対応を行った。
- ⑦ 美化委員会の生徒を活用して、清掃活動の徹底やゴミの分別・減量に努め、校内の環境整備を推進した。

【自己評価】

心のケアや発達障害への対応が増えてきている。そのような生徒の中には不登校となってしまう者もあり、引き続きスクールカウンセラーを活用した教育相談や生徒の支援体制を充実させていく必要がある。避難訓練の工夫は効果的であり、今後も工夫していくことが重要である。清掃活動やゴミの分別については、生徒の意識を更に高めていく必要がある。

(6) 広報活動等

- ① 学校ホームページに掲載する情報の鮮度を高めていくために、年間 187 回を越える更新を行った。学校行事や部活動における生徒の様子や活動の状況を写真で提供することができた。
- ② 学校見学会や学校説明会は生徒会や部活動部員の話をも新たに追加して実施した。文化・スポーツ等特別推薦実施の部活動体験及び都立高校 PR 事業の学校見学会を実施した。
- ③ 生徒による出身中学校への訪問を実施することができた。特にアンケートを工夫して魅力を発信できた。
- ④ 学校公開は計画とおり 3 回実施することができた。学校活動などをホームページに掲載し、保護者、地域住民等に広く周知した。

【自己評価】

7、8月の4回の学校見学会、10月からの3回の学校説明会は予約制で実施し、3268名の参加があった。部活動の体験入部もコロナ禍前と同様に実施することができた。都立高校 PR 事業の学校見学会は課題が残ったので、次年度は改善が必要である。生徒による出身中学校訪問は、インタビュー形式で特色をアピールできる工夫を行うことができた。校外での説明会へも積極的に参加した。最終応募倍率は、推薦 3.64 倍、学力検査 1.71 倍と高倍率となった。今後も本校の特色をわかりやすく伝えられるよう工夫を凝らしてアピールしていくことが重要である。

(7) 学校経営・組織運営等

- ① 組織的な運営を推進することで、学年・分掌で迅速に情報共有が図れるようになった。また、企画調整会議や職員会議の効率化や時間短縮が進んだ。
- ② 学校運営連絡協議会は3回とも対面で開催することができた。学校に対する率直な意見を直接伺うことができ、本校の教育活動についてご理解いただいた。
- ③ 個人情報安全管理基準に基づいた個人情報の管理を推進した。特に、定期考査や模試等の答案の受け渡しや年度末での書類の整理において、紛失防止や誤廃棄に対して注意喚起を促した。
- ④ 服務事故ゼロを目指し研修や注意喚起を行った。今年度は0件である。
- ⑤ 学校事故の範囲を広く捉え、未然防止を常に意識し、危機管理体制の確認を行った。
- ⑥ 副校長の学校マネジメント事業対象校でないため活用することがなかったが業務改善には取り組んだ。
- ⑦ 「休暇取得促進ウィーク」に設定、年休取得目標（管理職・一般職員ともに最低 15 日）の達成に向けて取り組み全教職員の平均取得日数は 15 日以上と目標を達成できている。7月・8月・12月・1月を「休暇取得促進月間」とし、年休の計画的取得に努めた。各自が週 1 回は定時退勤に努める取組を推進した。
- ⑧ 毎日の経営企画室との打合せを通して、経営企画室と情報を共有し教員との連携を円滑にさせた。
- ⑨ PTAによる学校行事の支援、菱野会による山荘準備等の実施、蓮葉会による「ようこそ先輩」事業、奨学金給付事業を実施した。

【自己評価】

企画調整会議を中心とした組織的な運営を推進し、教員が生徒と接する時間の確保に努めた総務部を新設することで業務改善を図ることができた。今後も、各分掌の更なる業務改善、仕事の効率化を図っていく。経営企画室とは今年度も毎朝 9 時に打合せを行い、連絡事項など日常的な様々な情報を共有し、必要な調整を行った。4年ぶりとなる菱野山荘を活用した自然体験合宿を菱野会、同窓会とも連携し円滑に実施することができた。デジタル化に伴う ICT 研修会を全定の教員合同で 2 回実施した。

2 重点目標への取組と自己評価

(1) 「進学指導推進校」としての認識の上に立ち、学習指導及び進路指導を充実させ、生徒一人一人の学力向上と希望進路の実現を図る。

- ① 模試分析会での検討を教科会担当として授業改善につなげ授業力向上を図った。
- ② 進路説明会・講演会を充実させた。校内予備校も新たに行った。引き続き、高い目標にチャレンジさせる進路指導を行っていく。

- ③ 大学入学共通テストを利用した受験指導を促進し、当該科目の受験者数と得点率8割以上の人数の割合が20%以上という目標を達成したのは、2科目(地理B、物理)にとどまった。国語の現代文のみでは29.7%、漢文21. %と20%を越えた。
- ④ 3、2年生対象に「スタディマラソン」を実施した。
- ⑤ 各学年において形を変えて朝学習を実施し、学習習慣、生活習慣を定着させた。
- ⑥ 図書委員会の活動として、読書会を実施し、読書活動を推進することができた。

【数値目標】

| | 目標 | 実績 |
|----------------------|------------------------------|---------|
| <1> 定例・年間計画に基づく教科会 | 合わせて16回以上 | 【16回】 |
| <2> 進路説明会・講演会(進路部主催) | 12回(講座)以上 | 【17回】 |
| <3> 国公立+早慶上理+GMARCH | 合格者120名以上 | 【98名】 |
| <4> 成成明國武芝 | 合格者100名以上 | 【83名】 |
| <5> 大学入学共通テスト | 出願者数90%以上 | 【92.9%】 |
| | 7科目受験者5%以上 | 【3.1%】 |
| | 科目の得点率8割以上が20%以上を15科目以上【2科目】 | |

(2) 「文武両道」の実現とともに規範意識を高めさせることで、達成感・成就感を体得させる。

- ① 部活動や学校行事を通して、より豊かな人間関係の構築及び目標を達成させる喜びを味わわせようと考え、部活動も学校行事もコロナ禍前の状況で実施した。
- ② 遅刻・登下校時の指導や頭髪指導、身だしなみ指導をきめ細かく行ってきたところ、自律的生活習慣を身に付け、落ち着いた学校生活を送っている。しかし、遅刻者数を減少させていく必要がある。
- ③ 事故の未然防止や予防的指導の考えのもと、薬物乱用防止及び交通安全指導(自転車マナー)に関するセーフティ教室を実施した。

【数値目標】

| | 目標 | 実績 |
|----------------------|----------|---------------|
| <1> 部活動加入率 | 90%以上 | 【99%】 |
| <2> 近隣の中学生を招いた交流練習会等 | 30回程度 | 【32回】 |
| <3> 登下校時の自転車による事故 | 0件 | 【5件】 |
| <4> 遅刻指導生徒数 | 各学年20名以下 | 【228名】(全学年合計) |
| <5> 頭髪指導生徒数 | 5名以下 | 【19名】 |
| <6> いじめ件数 | 0件 | 【0件】 |

(3) 本校の特色ある教育活動のPRとその成果を積極的に発信し、本校の魅力を理解した入学生を増加させる。

- ① 学校見学会及び説明会へ生徒を参加させることで中学生と保護者に好印象の内容に工夫することができた。都立高校PR事業の見学会は応募方法から説明の仕方に課題が残ったので、都教育委員会担当へ伝え、改善を依頼した。生徒の出身中学校訪問も引き続き継続していく。
- ② 広報用の学校案内を次年度に向けて進路指導や部活動のページを充実させていく。
- ③ ホームページについては、適時的確にアップして本校の魅力を発信していく。

【数値目標】

| | 目標 | 実績 |
|---------------------|---------|------------|
| <1> 体育祭への来校者数 | 1000名以上 | 【753名】雨天順延 |
| <2> 文化祭への来校者数 | 3500名以上 | 【4507名】 |
| <3> 学校見学会・説明会への参加者数 | 4000名以上 | 【3268名】 |
| <4> 入学選抜の応募倍率(最終) | 1.7倍以上 | 【1.71倍】 |